

天文月報 第十二卷 總目次

論 說

科學の體系と天文學の位置(一) 號 頁
理學士 本田 親二 一 三

科學の體系と天文學の位置(二) 號 頁
理學士 本田 親二 二 二二

巨星と矮星
理學士 小倉 伸吉 三 四三

ピッカリング氏の新星の解釋に就て
理學博士 平山 清次 四 五九

天體觀測經驗談 井上 四郎 四 六一

法隆寺星曼荼羅に就て

天體觀測經驗談(承前) 小野 清 五 七五

變光星の發見に就いて 井上 四郎 五 七六

星雲說の現狀 理學博士 平山 信 六 九一

起湖力について 英 國 ジェー・エー・
エチ・ジャンス 六 九五

星雲說の現狀(承前) 理學士 蘆野 敬三郎 七 一〇七

英 國 ジェー・エー・
エチ・ジャンス 七 一一一

亞刺比亞二十八宿と希梵の關係 號 頁
附ギンチエル氏星圖に關する疑問 小野 清 八 二二一

星雲說の現狀(承前) 英 國 ジェー・エー・
エチ・ジャンス 八 二二四

帝國の天文臺に就て 河合 幸二郎 九 一三七

光輝強き大光燭 井上 四郎 一〇 一五三

ローエルの記念寫眞 一〇 一五四

星雲のスペクトルに就て

フィンレー週期彗星 理學博士 平山 信 一一 一六九

カリホルニヤ大學天文科 神田 茂 一一 一七三

彗星搜索を奨む 山崎 正光 一二 一八四

京都に於ける彗星の觀測 理學士 山本 一清 一二 一八五

フィンレー・佐々木彗星に就て 佐々木 哲夫 一二 一八六

理學士 百濟 毅 愼 一三 一九〇

雜 錄

大正七年八月流星の觀測 神田 茂 一 六

帆足通直君を悼む 有田 邦雄 三 五一

國際的新科學研究機關設立に就ての聯合國際會議 四 六四

ピケリング教授 五 八〇

太陽と地球の壽命ならびに輻射に關した物理學上の新原理 七 一一三

一九一七年中の獨逸天文臺 八 一二七

理學博士寺尾壽先生の辭任 有田 邦雄 九 一五五

ブラッセル國際科學研究評議會 小川 清彦 九 一五六

國際天文同盟 一〇 一七六

雜 報

木星面の狀態 一 九

小惑星 一 〇

飛行機上の日食觀測 一 〇

光輝又は色彩の外觀に影響する色々の眼差 一 〇

星の光輝の大氣吸狀	一〇	カナダの七十二吋反射望遠鏡	二	ビケリング教授近く	四	七〇
ヘリウム星の視差	一一	恒星スペクトルのドレバー星表	二	ビケリング教授	四	七〇
鷲座新星の印度の觀測	一二	英國に於て經度局再設の議	二	東京天文臺に於ける助手募集	四	七〇
興味ある一流星	一二	日晷時計の缺乏	二	小惑星エロスの變光	五	八二
鷲座新星の黒線スペクトル	一二	瑞西の時計工業	二	一九一四年の彗星(ニウジミン)の軌道要素	五	八二
恒星の視差	一三	二月上旬の太陽黒點	二	素	五	八二
蝶狀星雲 NG.C.1068	一三	本年五月二十九日の皆既食	二	バーナード星の視差	五	八二
カナダの日光節約	一四	帆足通直君の計	二	球狀星團M中ペーリー變光星第九十五號星	五	八二
リツク天文臺日食觀測器械の踏米	一四	大正八年中惑星出沒一覽	二	のスペクトル	五	八二
恒星進化の速さ	一五	月の平均黄經の長年加速	三	ハッブル變光星 NG.C. 2381	五	八三
天狼星の軌道	一五	小惑星アンチゴネの變光性	三	ヒバルカスの新星に就いて	五	八三
無線電信號の波及速度	一五	本年出現すべき週期彗星	三	英國に於ける一般學術發達紹介雜誌發行の計畫	五	八四
恐ろしき來觀者	一六	球狀星團に於ける光輝の分布	三	ベルギー學立天文臺	五	八四
英國の天氣豫報	一六	鯨座ミラの極大	三	第二十二回定會記事	五	八五
ニウトン祭	一六	連星のスペクトル	三	大正七年度事務會計報告	五	八六
大正八年北極星の子午線經過と最大離隔表	一七	銀河の光輝	三	萬國緯度化觀測共同事務の結果	六	八八
太陽常數觀測所	三〇	南洋諸島の標準時	三	天空の黒影	六	九九
コロナのスペクトル	三〇	氣象要素の年對稱變化と四季の選擇	三	一一九個の星の視線速度	六	一〇〇
シヨル彗星(一九一八年)	三〇	佛國理學士院賞金	三	銀河のカルシウム雲	六	一〇〇
彗星の發見	三一	セッキ一百年祭	三	長週期變光星	六	一〇〇
鷲座新星のスペクトル	三一	ルイゼ氏逝く	三	一八七六年白鳥座新星の變光	六	一〇一
短週期の一新變光星	三一	本年五月の皆既日食	四	ケファイド變光星の光力と距離	六	一〇一
小さき星	三一	木星に於ける奇現象	四	英國及びカナダ夏時	六	一〇一
球狀星團の分布	三二	一七八六年第二彗星の決定的軌道要素	四	黃道對光と其起因	六	一〇一
星雲スペクトルの一新形式	三二	現行民間曆の改革意見	四	太陽の風速に及ぼす影響	六	一〇二
異常の一ヘリウム星	三二	巴里、華聖頓間經度	四	露國アルコヤ天文臺	六	一〇二
異常の星雲スペクトル	三三	リル天文臺	四	太陽熱觀測所の増設	七	一一五
ベルセウス座新星	三三	エルケス天文臺	四	日食の活動寫眞	七	一一五
アンドロメダ星雲中の第十、第十一新星	三三	英國に於ける天文學教育普及策	四	火星の紋様	七	一一六

土星及び火星の光度	七二六	彗星新星の暫定観測	一〇一六
星 團	七二六	アンドロメダ星雲中の第十二、第十三新星	一〇一六
天文器械の返還	七二七	敏座ミラの半年の極大	一〇六一
佛國天文雜誌プルトン・アストロノミツクの改題	七二七	米國に於ける日光節約法廢止	一〇六一
コッジヤ及ホルムス兩氏逝く	七一七	獨逸に於ける新解法案	一〇六二
去る五月二十九日の日食	八二八	印度の天紳	一〇六二
太陽に及ぼす地球効果	八二九	天文雜誌の値上げ	一〇六三
木星の表面	八三〇	新ドレーパー星表	一〇六三
惑星の軌位	八三〇	新西蘭島の無視報時	一〇六三
球狀星團 M23 (NGC 6658)	八三〇	ウイリソン山天文臺の暴風雨	一〇六三
彗星新星	八三一	メトカーフ彗星 (1885) の観測	一〇六四
大正六、七年東京正午砲の成績	一一三一	太流星の観測	一〇六四
線威標準時	八三三	フィンレー氏彗星	一〇六四
太陽黒點の最盛期	九一四六	水星軌道内惑星の搜索	一一七七
電氣渦動として太陽黒點	九一四六	去る八月十二日の磁氣嵐	一一七七
五月二十九日日食中の観測	九一四七	去る八月ベルサイズ流星群の観測	一一七八
地球上に於ける緯度經度の精	九一四七	蟹狀星雲のスペクトル	一一七八
流星の質量	九一四七	アンドロメダ星雲の旋轉	一一七八
米國の天文學	九一四七	リル天文臺	一一七九
大氣の太陽潮	九一四八	ニュージーランドの太陽觀測所	一一七九
天文時と常用時の統一	九一四八	英國に於ける夏時	一一八〇
去る五月の日食觀測成績	一〇一五八	チヒロー、ブラへの觀測	一一八〇
コロナの寫生	一〇一五八	木星旅の第六小惑星	一一九二
金星の極冠	一〇一五八	土星の環のアルベード	一一九二
コッパ彗星	一〇一五九	一九一九年b彗星の軌道	一一九三
一九一九年b彗星	一〇一五九	一九一九年b彗星の軌道	一一九三
一九一九年c彗星	一〇一六〇	フィンレー佐々木彗星	一一九三
シヤウツァツキ彗星 (911 YD)	一〇一六〇	三彗星の外観	一一九三
フナヤギメの距離	一〇一六〇	微弱なる新星	一一九三

天文月報 第十二卷總目次

英國に於ける極光出現	一一九四	天 圖	フニエノ三三三ノ四四ノ彗星ノ彗尾ノ	二ノ六三三ノ二
二十四時制	一一九四	惑星だより	フニエノ三三三ノ四四ノ彗星ノ彗尾ノ	二ノ六三三ノ二
子午環の將來	一一九五		若セノ四六八ノ二〇九ノ三六〇ノ三三	二ノ六三三ノ二
リッコー教授逝く	一一九五	太陽、月、變光星、星の掩蔽、流星群	フニエノ三三三ノ四四ノ彗星ノ彗尾ノ	二ノ六三三ノ二
第二十三回定會記事	一一九五		若セノ四六八ノ二〇九ノ三六〇ノ三三	二ノ六三三ノ二
大正九年中惑星出沒表	一一九六	附 録	天文學解説(三三) 理學士 本田 親二 三號附錄	(三四) 同
大正九年各種曆對照表	一一九七		法隆寺星曼荼羅の圖 小野 清 五ノ同	(三六) 同
			天文學解説(三五) 理學士 本田 親二 六ノ同	(三七) 同
			天文學解説(三六) 理學士 本田 親二 七ノ同	(三八) 同
			天文學解説(三七) 理學士 本田 親二 八ノ同	(三九) 同
			天文學解説(三八) 理學士 本田 親二 九ノ同	(四〇) 同
			天文學解説(三九) 理學士 本田 親二 一〇ノ同	(四一) 同